

2016J2

■順位表■第4節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	C大阪	12p	+4	4	0
2	讃岐	10p	+3	7	4
3	熊本	10p	+3	4	1
4	千葉	9p	+2	5	3
5	岡山	8p	+2	8	6
6	札幌	7p	+5	7	2 H●
7	町田	7p	+2	5	3
8	群馬	6p	+3	7	4 A●
9	東京V	6p	0	3	3
10	岐阜	6p	-4	4	8 --- ---
11	清水	5p	+1	3	2
12	長崎	5p	-2	4	6
13	京都	4p	0	4	4
14	松本	4p	0	2	2
15	北九州	4p	-1	2	3 HO
16	山口	4p	-3	2	5
17	横浜FC	3p	-2	2	4
18	愛媛	3p	-3	2	5 AO
19	山形	2p	-2	3	5
	水戸	2p	-2	3	5
21	金沢	1p	-3	3	6
	徳島	1p	-3	3	6

次回HomeGame

第8節 vs.松本山雅

4/17(日) 13:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

Living in Woods
本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院
岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

ALADDIN
何も無い店だけど..
心の花が咲く..
何も無い店だけど..
心 癒される..
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

today's guest : 水戸ホーリーホック

2015 J2 10勝16分16敗 勝ち点46:第19位

直近の対決と結果

2015/9/27
J2-34節@長良川
水戸 0-2 岐阜
ヘニキ,レオミネイロ scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		水戸ホーリーホック	
2016/03/20 J2-04節@ニスタ	愛媛 0-3 岐阜	2016/03/20 J2-04節@Kスタ	水戸 2-3 岡山
2016/03/13 J2-03節@長良川	岐阜 1-0 北九州	2016/03/13 J2-03節@石川西部	金沢 0-0 水戸
2016/03/06 J2-02節@長良川	岐阜 0-4 札幌	2016/03/06 J2-02節@Kスタ	水戸 0-1 C大阪

●悪夢のような、シーズン開幕から2試合連続で0-4の敗戦。この悪夢を払拭するべく臨んだ3/13(日)第3節・北九州戦では、選手たちチームが一丸となって、また大幅なスタメンおよびシステム変更が功を奏して、見事に1-0でシーズン初勝利を挙げることができた。続く3/20(日)第4節・アウェイ愛媛戦でも、前節に引き続いて戦術が効果を発揮し、8年間全くゴールを挙げたことのないニスタで3-0と快勝。これで2連勝となり、順位も一気に最下位(22位)から10位へジャンプアップ。4節終了時の成績では、(J2が現在の22チーム制になった)2012年以降、2014年(10位)と同じ。他の3シーズンでは19位~22位だったことを考えると、悪くないスタートと言えるだろう。まだ4試合を消化しただけの順位だから、首位(C大阪)との勝ち点差も6、最下位(徳島)との勝ち点差も5しかないし、得失点差だけで言えば、岐阜の-4は最下位だ。1試合の結果で簡単に入れ替わる順位、僕らに安心している余裕は全くない。今後も1試合毎に着実に勝利を、そして勝ち点を積み上げていくことが求められる。チームに自信を深めるためにも、今節は3連勝(そしてホーム連勝)を達成したいところだ。さて、その今節の対戦相手は、昨季19位(現在も19位)の水戸ホーリーホック。現在、(大幅な主力選手の入れ替えが一つの原因だと思われるが)まだ水戸はチーム戦術が浸透しておらず、4節を経過して未勝利。前節(ホーム岡山戦)も2-3で敗戦。岐阜から見れば(現在の)水戸は下位の対戦相手だが、北九州戦を迎えた時の我々と同様、水戸もまた、苦しんでいる状況で順位浮上のきっかけとするために、初勝利を掴もうと必死に戦ってくるだろう。全く油断できる相手ではない。また、水戸との通算対戦成績は8勝4分6敗、29得点27失点と若干勝ち越しているのだが、過去3年間に限っての勝敗は1勝1分4敗、7得点14失点。昨年(2015年)に1勝1分するまでは2年間4連敗という、相性のよくない相手でもある。この水戸をホームに迎える岐阜は、受け身にならず最後まで全力で闘うことが求められる。前回の対戦でゴールを決め勝利に貢献した#33レオミネイロには、現在の好調そのままに今節も得点を挙げて欲しいところだし、その前の勝利(2011年)で決勝ゴールを決めた#17野垣内俊には、あの時の活躍の再現を期待したい。また、(2013年に水戸に在籍していた)#24難波宏明も、普段以上に燃えているだろう。水戸で18年、通算547試合出場を達成している“ミスターホーリーホック”#1GK本間幸司の壁を撃ち破って欲しい(なお、#28GK石井綾は昨年岐阜で特別指定選手だったことも忘れてはいけない)。一方の水戸の要注意選手は、司令塔の#10MF船谷圭祐。過去4試合で3ゴールを許してしまっている選手だ。また、(大分から今季加入した)#7MF兵働昭弘にも(大分で)昨年2ゴールを決められている。この2人のベテランMFを自由にさせないことが、岐阜の勝利のために絶対に必要で、中盤での攻防に注目したい。また、(金沢から今季加入した)#26佐藤和弘は多治見市出身の選手。地元・岐阜への凱旋に気合いが入っているだろうし、同年代の#19益山司や、金沢で同僚だった#7田中パウロ淳一とのマッチアップにも注目したい。さらに前節J初ゴールを挙げた#29宮本拓弥は、岐阜の#30田代雅也とは昨年の関東大学リーグでのライバルだ。大卒ルーキー同士の熱い戦いも見逃せない。今節は、アニメとのコラボ“ダービー”的な「アニ×サカ!!」「のうりんコラボマッチ」そして美濃加茂市ホームタウンデー(美濃加茂市出身の#19益山司には、その意味でも活躍に期待したい)でもある。負けられない戦い。チームに春の訪れを告げる勝利を手に入れるため、僕らサポーターも、最後まで勝利を信じて選手たちを後押しして応援しよう。そして、試合終了の笛と同時に、ホーム長良川で3連勝の歓喜を爆発させよう。(ささたく)

「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。休:月曜日

投稿募集!!
アドレスが変わりました
gidaidohri@gmail.com

【第3節】 岐阜 1-0 北九州

●開幕から2試合連続で0-4という不甲斐ない敗戦。もう負け試合は、少なくとも無様な負け試合は見たくない。誰もがそんな気持ちで臨んだ北九州戦だっただろう。さてスタメンは…まあ当然ながら変更してきますよね。でも、僕には意外(?)と素直に納得できるメンバーと布陣だった。GKは経験のある高木義成にして、#15 田森はCBから(本職の)ボランチへと1列上げて。そういえば、クラブからのスタメン情報では田森がDFになってたので、これ以上失点をしないために(守備的な)5バックなのかと少し思っていました(苦笑)。ロングボールに活路、つまり縦パスを多用することなので、DFの裏に抜け出すのに長けた#33 レオミネイロを1列(半列?)前にして、#14 風間宏矢も入れて…って、なんで開幕戦からこのスタメンじゃなかったんだろう(苦笑)。(個人的には、#4 岡根と#24 難波もスタメンかなと予想してましたが…)逆に言えば、前節までの方が僕には意外なメンバーと布陣だった訳で、開幕2戦は(PSM神戸戦も含めて)“お試し”メンバーだったのかなあ?でも全42節の長いリーグ戦とはいえ、スタートでつまづくのは非常に怖い訳で、それでも新しい選手たちを試したのかしら…。そして、対する北九州は…これって“ターンオーバー”?僕としてはスタメンで来ると思ってた選手が数名ベンチ入り…まあ、2試合連続で大量失点してるウチが相手なので、その意図も判らなくもない(苦笑)。

さて、試合開始すると…「なんだこれ、“別のチーム”じゃんか!?’(苦笑)。もちろん相手によって試合展開は変わるものだけど、それにしたって前節の“修正”どころじゃないレベルで(苦笑)ウチの守備がハマる。おそらく、変更したシステム…4-3-3とか4-1-2-3とか色々な説はありますが、2ボランチから1ボランチ(アンカー)にしたことは間違いない…ことで選手間の距離が良くなってらるだろうけれど、すばやく相手のボール保持者にチェックが行って攻撃を防ぎ、セカンドボールが拾え、そして攻撃に転じられる。攻撃の切り替えとパスの連携にはミスが少し目立って、こちらはまだまだ修正が必要な感じがしたけれど、それでも前節までとは守備の組み立てに雲泥の差が。攻撃も、ボールを奪ってからショートパスを多用するんじゃなくて、シンプルに前にボールを運ぶスタイルの方が、(選手間の連携が深まっていないことも原因だけれど)今のチームには適しているような気がする。っていうか、なんで今までのこのシステム(戦術)にしなかったんだ!?(苦笑)いやあ、サッカーってのは、チームのバランスを調整するのが本当に難しく、実に怖いスポーツですよえ…。

前半は「まずは守備」という意識もあったんだろう。惜しい攻撃シーンは何度かあったけれど、決定的なシーンは演出できず。後半早々、#14 宏矢に替えて#7パウロの投入には「え?」と疑問だったけれど、足を痛めたから交替したんだね…(と試合後に判った)。後半は少しオープンな撃ち合いになってきて、お互いに決定機が生まれてきたけれど、このまま引き分けか…と微かに思い始めた後半終了間際の44分、相手FKのこぼれ球を#33 レオが拾って前方へ→#7パウロがゴール前まで切り込んで→#10 レオロシャの素晴らしいゴール!!あの、DF2人の間をすり抜ける動きといい、ゴールネット上に突き刺すシュート精度といい、先制(決勝)そして今季初ゴールの喜びもさることながら、僕は「上手い…」と感嘆していました。さすが“10番”レオロシャ、ファンタジスタの片鱗を見せてくれました。今後も何度でも魅せてくださいお願いしますお願いします(笑)。

ただ個人的には、この試合のMVPには#33のレオを推したいと思う。これまでの2試合で苦しんでいたのが嘘のようにピッチを献身的に駆け回り、何度も決定機を作り、守備にも大きく貢献していたと思う。決勝ゴールも、レオのロングパスがなければ生まれなかった。それと、「なんかパフォーマンスしろ」とパウロに要求されても「いや、そんなのできないから!」と照れてしまうところが、なんとも日本人ぽくて(笑)。

開幕2戦連続の惨敗で、僕は今シーズンの行く末に不安しか感じられなかった。けれど、この勝利で希望が持てるようになった。特に、課題だった守備面が改善されて無失点での勝利は非常に大きい。まだまだ課題はあるけれども、この勝利が偶然の産物ではないことを切に祈ります。(ささたく)

●スタメンを見た時、思わず安堵のため息。というより、あやうくうれし涙がこぼれそうな感覚に襲われた。ちゃんとした?ポジション配置。適正のある選手を適正な位置に。それだけで、こんなに違う。こういうのをキャンプからやってきたんじゃないのかな?選手はみんなプロなんだから、普通にやれば、それなりの結果は出せる。過去2戦のようなことはあり得ないんだってば。そういう感想をこの紙面を借りて書いてきたつもり。練習でやってないことは本番で出来ない。そんなのは、ただのバクチ。しかも、バクチなら丁半の確率は2分の一だけど、やってきたのは「ゲーとチョキしか出せない縛りのあるジャンケン」みたいな試合。そりゃ、勝てませんよ。そして、「勝つか負けるか、やってみなきゃわからない。」サッカー。そういうのは勝負師とは言わない。ただのギャンブル好き。言うなれば、負け師。と、まあ、かなりやさぐられていた試合前だったワケです。せつかくの今季初勝利なのに、負けた時より辛辣なこと書いてますね。

それでも、そういう風に書きちゃうくらい、内容が激変してるのは試合をご覧になってた方にはわかっていただけたと思うんですが、いかがでしょうか?何の意図も意志もなく、ただ、相手選手とボールを追い回していただけたような開幕からの2試合と比べ、信念というか、何の迷いもなく、そして連動した動きでプレスをかけ、前を向いて戦う姿。前半を0-0で終了した時点で、「あ〜、これだけでももう十分だ。後半は、もうオマケみたいなモンだ。」と思ってしまったことを告白しておきます。そして、次節以降もこれなら、なんとかなるかもしれないと思ったことも。

それなのに、まさかまさかの終了間際の劇的ゴール。レオナルドの最初の一撃がブロックされた時は、ここまでか〜、と思ってしまった分、余計に感動したというか、興奮したというか。もう、たまりませんよね?勝ったのっていつ以来?岡根がゴールを決めた昨季の千葉戦ですか?ホント〜に長かった。これからも、こういう試合をお願いします。もちろん、結果は欲しいです。欲しいですが、内容にはちゃんと納得できますもんね。

ただ、気になることは多々あります。宏矢の交替には驚いた。でも、負傷ならしかたがない。当然でしょう。それ以上に、高地。彼はどこか痛めているとしか思えません。壁を越えないプレスキックが続くなんて尋常じゃないでしょう。この先、彼の存在が必ず必要になります。プロである以上、出場するからには万全、と言うかもしれませんが、そこは周りがストップをかけてもらいたい。そして、もうひとつ。この日の高地もそうですが、ケガをした選手の試合後の挨拶もナシにしませんか?アイシングした足をひきずりながらの場内半周なんて危険なことではないでしょうか?試合を終えたばかりの選手は気持ちが昂ぶっていて状態が気にならないのかもしれませんが、そこを、スタッフの方が止めてもらうようにできないでしょうか?もちろん、ボクから見ている側も押しとどめなきゃいけないし、出てこようとしても「戻って〜!」と言わなきゃいけないでしょう。選手には、何よりピッチ上で最高のパフォーマンスを見せてほしい。そう思った次第です。まだまだ、これから、ですね。(ぐん)

●正直に言うと、「アタマを抱えてしまう」試合だった。もちろん『いい意味』で、でもあるが(笑)。アウェー群馬戦はテレビ観戦だったけど、ホーム開幕の札幌戦は長良川で観ていた。観ているぼくらが「アタマを抱えてしまう」くらいにパニックを起こすDF陣。『機能する』という概念がどこにもない選手達の動き。後半に入って札幌が緩めなかったら、もっと凄まじいまでの大量失点だってあり得た。それがどうだろう、北九州戦ではわずか1週間で綺麗に修正されていた。基本的に田森のアンカーに高地とタイスケ(?)がポジションを変えながらフォローする。対戦相手の北九州

が前節のホーム・山口戦で敗れたこともあってか「まず失点しない」ことを前提に慎重に試合に入って来たように思えたことを踏まえても、こんなにも綺麗にF C岐阜のチームプレーが『機能する』なんて。いったい、誰がどんな魔法を使ったのだろう。

もちろん、勝利を望んでいたけれど、ドローだっていい、最後に決められて0-1で負けても、それでもいい。「このサッカーが出来るようになった」のなら、将来を過剰に悲観しなくても大丈夫だ。そんな風に思っていた試合終了間際に、歓喜の瞬間はやってきた。しっかり相手に寄せてボールを奪ってから即座に長いパスを出したレオミ、ドリブルで一気に運んでいったパウロ、そしてシュートが相手DFに当たってから（これはテレビの解説者も言っていたけど）取って狭い方に抜いて行って得意の左足を振りぬいたロジャ。しっかり守ってチャンスを確実に仕留める。素晴らしい試合だった。

でも、やはり「アタマを抱えて」しまうのだ。どうして、この内容のサッカーが群馬戦や札幌戦では出来なかったのだろう。2試合連続で4失点の大崩壊を「配置とシステム」でここまで修正できるのなら、選手の「適材適所」を見抜くのに公式戦2試合を使ったのだとしたら、放漫もいいトコだ。それはキャンプだったり練習試合だったりシーズン前に把握しなければいけないテーマのはずだ。

メインスタンドで観ていた仲間の印象は同じだった。「次の愛媛戦次第」。次もチームが『機能する』試合が出来たら、「修正」が成功したと認識しよう。もし、元に戻るようななら、この日の勝利はただの“ラック”だ、と。(吉田铸造)

【第4節】愛媛 0-3 岐阜

●前節の、今シーズン初勝利がフロック（偶然）ではないことを証明したい、アウェイでの愛媛戦。しかし…ニンジニアスタジアムは、F C岐阜がJリーグ昇格（2008年）以来、勝利はおろかゴールを一度も奪ったことがないスタジアム。これまで8年間、「今年こそは…」と足を運んだ数多くの岐阜サポの希望を打ち砕き続け、遂には（遠距離かつ交通の不便さなども相まって）“魔境”“鬼門”“結界”などと呼ばれてきた場所…（苦笑）。

さて、勝利試合のスタメンは変更しないのがセオリー…だけれど、今日は#6高地がベンチにすら座っていない。この2年間、出場停止を含めてもベンチ外だったことは84試合でたった3試合しかない（そして84試合で82試合のスタメンだった）男が、だ。…だけれど、それは僕にとっては（残念ながら）想定内だった。北九州戦後の、あの歩き方…どう見たって、相当な無理をしているとしか思えなかった。その意味では、前節の勢いを維持できるのか、そして高地に頼らない試合運びが出来るのかも問われる試合になった。

不安材料を抱えての試合開始だったが、しかし今節も守備がしっかり機能しているし、攻守の切り替えは前節よりスムーズになったような。逆説的だけれど、“チームの中心・攻撃の起点”である高地がいないことで、ピッチの選手たちに「自分たちが何とかしなければ！」という意識が、より強く作用したのかもしれない。ただ、#33レオミネイロがGKの頭上を越す絶妙なループを放ち、そのボールは美しく弧を描いてゴールに向かっていき…そしてバーを叩いた時は、振り上げかけた両腕で頭を抱えて「ぐああああ！！」と叫んでしまいましたよ（苦笑）。「まだ“結界”は破れないのか…」と。

でも、それでも。「歴史はいつか作られる」「記録はいつか破られる」。8年間、我々のゴールを拒み続けてきたニンスターの扉をこじ開けたのは、若武者の#36FW瀧谷亮！！#19益山司のアーリークロスをも#28水野泰輔が中に繋ぎ、#14風間宏矢がニアでスルーしてDFを引きつけ、ファーに走り込んだ#36瀧谷亮が押し込む…ニンスタ初ゴールでもあったけれど、連動した攻撃での得点というのが、さらに僕には嬉しかった。この前半で既に若干“おなかいっぱい”の僕でした（苦笑）が、今日のチームからは8年間の鬱憤を晴らすかのような“フル

コース料理”が出てきた（笑）。後半早々に#33レオ→#14宏矢の追加点。そして、交替で入った#24難波宏明の真骨頂。投入直後に前線からの激しい守備でボールを奪い、ショートカウンターで#33レオが（しかもキックフェイントでGKを崩しておいて）トドメの3点目。そして、クリーンシート（無失点）で試合終了。ホント、お腹一杯です（苦笑）。そうそう、初インタビューだというのに#36瀧谷のカメラ視線は、色気があるというかエロいというか（笑）。これからもゴールを量産して、その魅力を発揮して欲しいよね（笑）。

いやー、無理してでも現地に行けば良かった（苦笑）。TV観戦でもこんだけ嬉しいんだから、現地ではこんだけ嬉しいこととか。実に悔しい。そして、こんな悔しい思いにしてくれたことが、実に嬉しい。今年も諦めずに現地に向かった岐阜サポたちは、さぞかし溜飲を下げたことだろう。本当におめでとう。そして、ありがとう。

これで連敗からの連勝。ただ、課題もあったと思う。守備では（北九州戦に比べ）決定機を許してしまった。たまたま今回は愛媛がミスしてくれたからよかったものの、決められていたら試合展開は大きく異なっていただろう。しっかりと修正してほしい。また、カードが多かったのも少し不安材料かな。早い段階で累積警告での欠場選手が増えていくのは避けたいところだ。特に、（僕の感覚では）このシステムの核である#15田森と#33レオが欠けた時に、その穴を埋めることが出来るのか…。とはいえ、この勝利で選手も（そしてサポも）自信を深めることができたはず。この自信を深めるためにも、3連勝を達成して欲しい。そのために（前節の分まで）今日も全力で応援しますよ！！（ささたく）

●9年。J参入以来足掛け9年。やっと、ついに、とうとうニンスタでの初得点！そして初勝利！「オレが行かなきゃ勝てるかも？」そう思いつつ、いない時に得点、勝利は悔しすぎる。それが昂じての9年目。「勝利を見届けるまでは……」が「得点を決めるまでは……」になりつつあったけれども（苦笑）、待ちに待ったその日が訪れた。それが、まさかまさかの3-0とはね……。信じるモノは救われる、ですか？録画を見直して思ったけど、いかに向こう側のゴールとはいえ、ふだんなら誰が決めたのか、わかりそうな得点なのに、コールが始まるまで誰が決めたか全然わかんなかったのも、このスタジアムのせいだ。そういうことにしておいてください。でも、キックオフからゴールが決まるまで、田代のヘッドとか、レオミの2本とか、特にあのループがバーに阻まれた時には「ニンスタの呪い、恐るべし」と観念しましたよ。いや、ふつう決まるでしょ？まさに魔境。また、今季もか。今季もこのままなのか。そう思った矢先、そのガッチガチに堅かったゴールをこじ開けたのが瀧谷とは。怖いもの知らずの若者なんだな、いつでも時代を変えるのは……。試合後のバンザイ四唱の後でどうしても感謝の気持ちを伝えたくなくて、柄にもなくフェンスに立ち、瀧谷クンに「ありがとう！ニンスタの初ゴールだよ。」と言ったけど、雰囲気的に「こりゃ、伝わってないな。」と思ったら、試合後のインタビューでレポーターの方が伝えてたんだね。クラブ史上に残る一発です。ありがとう！もちろん、宏矢の、彼には似合わないような泥臭いゴールも、レオミの相手GKをもてあそんだような余裕のゴールも素晴らしかった。でも、それ以上に前節以上の連動したチェイスやプレスが素晴らしかった。その中心が泰輔だったような気がする。陰のMVPってヤツかな。

いろいろ細かいことも、言いたいこともあるけど、とりあえず今は余韻に浸らせてください。満足です。堪能しました。こっそり書くけど、高地を休養させることができたのはよかった（風邪とかじゃないよね?）。これで、今季の戦績は五分。残留のためには、1か月に勝ち点5が必要。それをクリアできて何よりです。でも、ここからですよ。

何はともあれ、声を大にして言いたいのは「当分、ニンスタには来ないゾ！少なくとも、あの渋滞が解消されるまでは」。あ、松山や愛媛県は気に入ってますので訪れるかも、です。念のため。（ぐん、）

